



東日本大震災の 教訓に学ぶ

スタートした

「3・11伝承ロード」

の取組み

国土交通省 東北地方整備局
企画部長
(震災伝承ネットワーク協議会 副会長)
西尾 崇



Takashi Nishio

被災地に遺る 貴重な教訓

発災から九年が経過した東日本大震災の被災地では、震災遺構の保存、慰霊碑や追悼施設の整備、語り部活動など、震災の実情や教訓を次世代に語り継ぐ「震災伝承」の取組みが各地で数多く進められている。

一例として、岩手県陸前高田市にある東日本大震災津波伝承館では、「逃げる」「助ける」「支える」などの人々の行動をひもとき、命を守るための教訓を展示している。被災した構造物の実物をはじめ、インフラの被災の現場状況も残している。更に、東北地方整備局の災害対策室も移築されており、くしの歯作戦をはじめとする官民のインフラ関係者の初動対応や、その時に直面した様々な障害、今後の対応などについて詳しく学ぶことができる。一般の方々にご覧いただくことで、災害時における建設業界の役割に関する理解が深まることも期待されている。



東日本大震災津波伝承館内の「東北地方整備局災害対策室」

災害列島日本

東日本大震災以降も、熊本地震や令和元年東日本台風による豪雨災害など、各地で災害が頻発している。今後も南海トラフでの地震・津波の発生や、地球温暖化による台風や豪雨の激甚化・頻発化など、災害の発生リスクは高まっている。

これに対して、例えば二〇一八年

に発生した西日本豪雨の被災地には、一二年前の洪水被害を語る

「水害碑」があつたが、この事実を知る住民はほとんどおらず、前回と同じようにお亡くなりになった方が

がいる。

「災害列島日本」で生き残る知恵と教訓は、戦後最大の被害をもたらした東日本大震災の被災地に遺されている。

教訓を学べる 仕組みづくり

被災地で教訓を伝えるこれらの施設の活用に向け、「震災伝承ネットワーク協議会」(東北

地方整備局、青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市)を二〇一

八年に設置し、取組みをスタートした。個々の震災伝承の取組みをネットワーク化して相互連携・一体化し、全国各地の防災力向上と被災地の交流促進を図る「3・11伝承ロード」の活動である。

活動の第一弾として、東日本大震災の実情や教訓を伝承する「震災伝承施設」を募集し、これまでに二三百六件を登録した。ホームページやパンフレッ

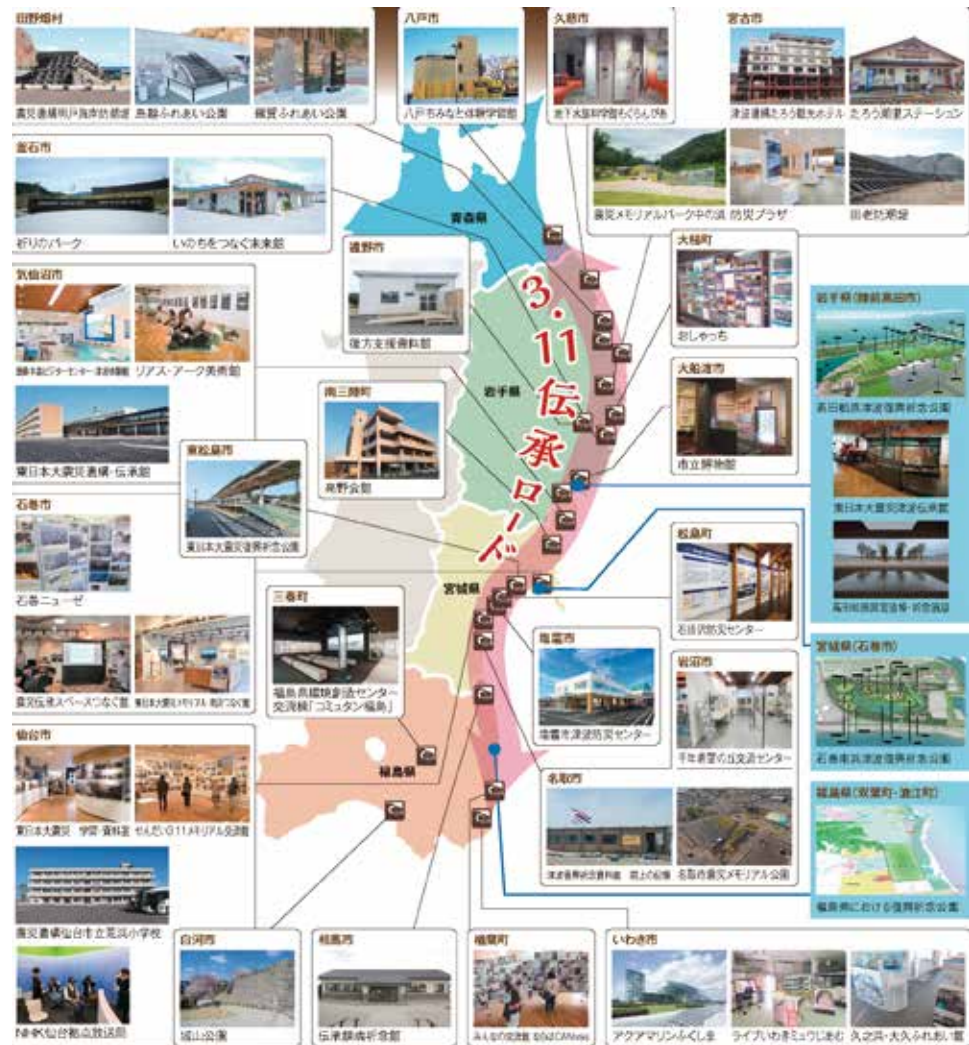
トによる案内を進めており、数多くの問い合わせが届いている。

こうした行政による取組みの一方で、学界、経済界が中心となつて、この取組みを支援する(一財)3・11伝承ロード推進機構が昨年設立された。震災伝承施設を巡って学ぶ「伝承ツーリズム」の企画がスタートしている。

防災意識社会の構築へ

戦後最大の自然災害を受けた東北には、発災当時の実情・教訓をリアルに伝える資料、写真、映像、構造物、建物などがたくさん遺されている。また、当時の様子を詳しく伝える語り部活動も盛んに行われている。これらの貴重な防災学習の教材を全国各地の防災力向上に活かさない手はない。

災害が起きてからでは遅い。「3・11伝承ロード」の活動は始まったばかりであるが、この先駆的な取組みが全国各地の防災意識社会構築の手掛かりとなれば幸いである。



「3.11 伝承ロード」のイメージ